甲第68号証

遺骨返還　琉球と連帯／アイヌ協会が呼び掛け

琉球新報　2019.02.10　琉球新報朝刊　25頁　４社　１版　写図表有　(全577字)

旧帝国大学の人類学者らが持ち出した遺骨が返還されていない問題で、「琉球・アイヌ民族の遺骨返還を求める集会」（アイヌ民族と連帯するウルマの会主催）が９日、宜野湾市の沖縄キリスト教センターぎのわんセミナーハウスであった。平取アイヌ協会の木村二三夫副会長が、日本人がアイヌ民族を大量に虐殺し、強制移住や同化政策で貧困に追いやった歴史を振り返り「日本の歴史はアイヌ民族の犠牲の上にある。政府は歴史に向き合い、アイヌへの誠意を見せてほしい」と述べた。登壇者は遺骨返還に向け、アイヌと琉球で連帯するよう呼び掛けた。

木村さんは、地元の平取町からも人類学者が遺骨を盗み出したことを「不当な収奪でアイヌの人権と尊厳を踏みにじった」と指摘した。琉球遺骨返還請求訴訟に関して「違法な手段で持ち去られた先人の遺骨、人権、尊厳を取り戻すために立ち上がった琉球の人々に感謝したい。百万の味方を得た思いだ」と話した。

北方４島を巡る日ロ交渉については「日本人は（千島列島に）アイヌが住んでいたから『歴史的にも日本固有の領土だ』と都合よく主張する。アイヌを利用するずるがしこい考え方には辟易（へきえき）する」と批判した。

琉球遺骨返還請求訴訟の原告として金城実さん（彫刻家）も登壇した。

集会は「北方領土の日」（２月７日）について考える企画。毎年２月に開かれており、今回で２１回目。

琉球新報社

本サービスにおける著作権および一切の権利は株式会社ジー・サーチまたはその情報提供社に帰属します。
本サービスの出力結果を複製、複写、出版、販売または第三者に対し配布することは禁止されています。